文化財通信くまもと

第23号
平成18年3月
熊本県
教育委員会

新指定文化財について

平成17年度は新たに国指定史跡４件（うち２件は追加指定）、国指定重要文化財１件、県指定史跡１件、県指定重要文化財1件、国登録文化財２件が追加されました。

（平成18年２月28日現在）

国指定史跡 野津古墳群（のづこふんぐん）

所在地　八代郡氷川町
指定日　平成17年3月2日

野津古墳群は、八代郡氷川町の標高 90 ～ 110m の台地上にある４基の前方後円墳からなる古墳群です。

これらの古墳は、それぞれ、物見櫓（ものみやぐら）古墳・姫ノ城古墳・中ノ城古墳・端ノ城（はしのじょう）古墳と呼ばれ、６世紀の初頭から中頃までにつくられたと考えられています。古墳群は、最初に物見櫓古墳がつくられ、その後、残る３基が連続して築かれました。古墳の大きさは、60 ～ 100m の大きさであり、中九州地方において、この大きさの古墳が密集して存在する場所はここだけです。古墳に葬られた人物については、当時、肥後で最大の豪族であった「火の君」の一族であるとする説があります。

古墳群については、平成５年度から、熊本大学考古学研究室と竜北町（現氷川町）教育委員会が発掘調査を行ってきました。その結果、古墳の規模や石室の構造が明らかになり、垂飾付耳飾（すいしょくつきみみかざり）等、朝鮮半島との関連を示す遺物も出土しました。古墳群は、その重要性から平成 17 年３月に国の史跡に指定されました。

国指定史跡 堅志田城跡（かたしだじょうあと）

所在地　下益城郡美里町
指定日　平成18年1月26日

堅志田城跡は、下益城郡美里町にある中世の山城です。この城は、熊本県内で 533 城跡を数える中世城跡の中でも、山城として最大級の規模を誇ります。江戸時代の城にみられる立派な天守閣はありませんが、山の地形を活かして、堀や柵をめぐらせて戦乱に備えた実用的なつくりをしています。

堅志田城跡は、大永３（1523）年、阿蘇家の内紛が記された中世古文書に記録がでてきます。戦国時代末期になると、薩摩の島津氏と阿蘇氏が堅志田城をめぐる攻防戦を開始しますが、天正13（1585）年には、島津軍の攻撃により落城したとされています。

町の教育委員会は、足かけ 18 年にわたって堅志田城の調査を続けてきました。その結果、多数の郭とよばれる平場（ひらば）や堀の他に、掘立柱建物跡（ほったてばしらたてものあと）や門跡等も確認されました。堅志田城跡は、遺跡の重要性が認められて、平成18年1月に国の史跡に指定されました。

国指定史跡 豊前街道腹切坂

所在地　玉名郡南関町
指定日　平成17年3月2日(追加指定日)

豊前街道は、熊本市新町を基点として豊前の小倉（現北九州市）までを結ぶ街道です。この街道は、豊後街道、薩摩街道、日向街道とならぶ九州四大街道のひとつで、江戸時代の参勤交代路でもありました。今でいう国道３号線に沿って北上し、植木町、山鹿市を経て、三加和町、南関町へと続きます。南関町には、この街道沿いに関所や藩主の休憩場所である御茶屋も設置されていました。

腹切坂は、街道が玉名郡三加和町を通る部分にあたり、参勤交代道中でも屈指の難所とされていた坂です。また、西南戦争の際には街道の要所として激戦地となったことでも知られています。

三加和町では、豊前街道が平成８年に「歴史の道百選」に選ばれたのを機に、保存整備を行うことを決め、４年間をかけて腹切坂の整備を行いました。平成15年度には、当時の雰囲気をそのままに感じられる整備が完成し、平成17年３月に、国の史跡に指定されました。

国指定特別史跡 熊本城跡

所在地　熊本市
指定日　平成17年3月2日(追加指定日)

熊本城は、日本三名城の一つに数えられる名城で、天正16(1588)年、肥後国の領主として熊本に本拠を置いた加藤清正によって築かれました。その築城は慶長6(1601)年に始まり、同12(1607)年に完成したといわれています。城は、その後、加藤家２代、細川家11代の居城となり、現在まで熊本のシンボルとして県民に親しまれています。

城郭は広さ約98万平方メートルという広大なもので、その中に天守３、櫓49、櫓門18、城門29を持つ雄大なものです。なかでも「武者返し」と呼ばれる美しい曲線を描く石垣は有名です。

熊本城跡は、昭和８年に指定された後、昭和30年に国の特別史跡として指定される等、史跡に指定される地域が加えられてきました。平成17年３月には、旧藩時代の武家屋敷跡が存在する城北西部の三の丸地区が、特別史跡に追加指定されました。

国指定重要文化財(建造物) 江藤家住宅

所在地　菊池郡大津町陣内1652番地
指定日　平成17年12月27日

江藤家住宅は、県北中部の大津町陣内の平野部にあります。敷地の西寄り中央に南面して主屋があり、南西隅に長屋門と馬屋、主屋南東に中の蔵、敷地西辺中央に裏門があります。主屋は、文政９（1826）年の普請願の「奉願覚書」から、それ以降の建築とされていましたが、近年の修理で「文政十三年五月中旬」の墨書が発見され、文政13（1830）年には完成していたことが分かりました。

この主屋は、広間部及び土間と突出する座敷部と居室部が緊密に連携したコの字型の平面構成になっています。建設後も、増築を重ね規模を拡大すると共に、座敷部を中心に優れた細川藩御用絵師や職人達の手による贅を尽くした床飾りや障壁画等に繁栄の面影をみることができ、意匠的にも充実の度を高めています。長屋門から蔵、馬屋などの付属施設が主屋を取り巻くように配され、水路や石垣を含めて江戸時代後期の屋敷全体の形がよく残されています。

県指定史跡 大鞘樋門群

所在地　八代市鏡町、千丁町
指定日　平成17年6月8日

大鞘樋門群は、惣庄屋であった鹿子木量平の指導のもと文政2(1819)年の四百町新地築造に伴う樋門群です。この樋門は、その規模と地形に伴う水勢の強さから強固な構造が必要なため樋門を囲む鞘石垣に巨石を使っており、その堅牢さに驚き賞賛の意をこめて「大鞘樋門」と呼ばれました。

築造当時は5ヵ所に設けられましたが、現存するのは「殻樋」、「二番樋」、「江中樋」の3基です。文政以前の「御国流」と呼ばれる在来工法は樋門の破損による修理費用に膨大な支出を伴ったので、備前岡山藩から堤防と樋門上部の石垣をコの字型に組み、海側に巨石を用いて構築する「備前流」が導入されました。その後、費用の削減や耐久性の向上等を考慮し開発されたものが「合法」と呼ばれる工法です。

「合法」で造られた「江中樋」、「二番樋」と「備前流」で造られた「穀樋」は、樋門の築造技術の転換期となった遺構で、八代平野干拓の歴史的経緯を示す重要な遺構です。

県指定重要文化財(建造物) 有明海旧干拓施設群

所在地　玉名市横島町横島神崎尻地先
指定日　平成18年1月11日

有明海の菊池川河口付近は、近世以来干拓が盛んでした。特に明治中期の干拓は大規模で、明治26年の明丑開、明治28年の末広開の2つの干拓地は合計210㌶にもなります。

この時造られた潮受堤防や樋門は、大正8年と昭和2年の潮害で壊れるたび、高さを3mも嵩上げし、二重に鞘石垣を施すなどより強固なものに補修され、昭和42年の国営干拓完成まで第一線でその役割を果たしました。その補修の跡は、今でも堤防に見ることができます。

有明海旧干拓施設群は、明治中期の大規模な堤防と樋門が現存する全国でもまれな干拓遺構であり、近世から続く有明海干拓の歴史を物語る貴重な資料です。

登録有形文化財 大川阿蘇神社農村舞台

所在地　上益城郡山都町大平大字宮ノ本120番地
登録日　平成17年 11月10日
構　造　木造平屋建、鉄板葺、建築面積89m²

江戸時代から大川阿蘇神社例大祭の余興として文楽や演芸が行われ、住民の憩いの場であった建物です。今の建物は昭和28年に移転新築したものですが、舞台に広い空間を創り出すために、正面に約13mの梁を渡すという独特の構造を持っています。

また、西側に楽屋を、北東隅に浄瑠璃棚を設けており、清和文楽（県指定）を数限りなく演じてきたことを分かります。10月の秋の大祭では、この舞台で文楽を上演します。

登録有形文化財 熊本ルーテル学園神水幼稚園園舎

所在地　熊本市神水1丁目633番地2
登録日　平成17年12月26日
構　造　木造平屋建、瓦葺、建築面積341m²

昭和4年に米国福音ルーテル教会子供会が、元会長クロンク夫人を記念して建設しました。半円アーチ窓に沿って切妻屋根に丸味をつけた玄関、高温多湿の熊本の夏を考えての広い開口部、鮮やかな虹色の内壁が独特です。

保護者が乳児を見守るためのギャラリーや、「ままごとの家」もあり、基本設計を行った初代園長エーネ・パウラスの自由で家庭的なアメリカ幼児教育の理念をよく表現した建物です。

平成17年度発掘調査について

平成17年度に県教育委員会が発掘調査した遺跡は数多くありますが、その中から主な遺跡をいくつか紹介します。

太郎丸遺跡（たろうまるいせき）

太郎丸遺跡は、玉名市津留に所在し菊池川と木葉川（このは）の合流点近く、菊池川左岸にあります。

調査区の横には、平成16年に県指定無形民俗文化財に指定されている「流鏑馬（やぶさめ）」が行われている梅林天満宮（ばいりんてんまんぐう）があります。遺跡の現状は水田ですが、古くは古代（平安時代）から中世（鎌倉・室町時代）頃までの土師器（はじき）や須恵器（すえき）、瓦器（がき）、陶器などが数多く出土する複合遺跡です。

調査区全体（写真中央の大きなくぼみ）

特に、最も菊池川に近い場所からは、両側に溝が掘られ中央部に不整形の穴が連続している、道路状遺構が検出されました。道路状遺構は出土遺物から、中世に使われていたものと思われます。また、その周辺には人々の生活の痕跡と思われる「掘立柱建物跡」や、お墓である「土坑墓（どこうぼ）」なども見つかっていて、菊池川のほとりに住んだ人たちの生活の様子が伺えるようです。

太郎丸遺跡の近くには、昨年度調査を実施した、「祭田下遺跡（さいでんしたいせき）」や木葉川改修に伴い調査をされた「群前遺跡（むれまえいせき）」など、同じ時期の遺跡が点在しています。

瀬萩遺跡（せはぎいせき）

瀬萩遺跡は、玉名市を流れる木葉川沿いにあります。発掘調査の結果、古墳時代（今から1500年位前）から中世（今から700年位前）の間の、稲作をしていたと思われる跡、溝、住居の跡、何かを燃やしたものと思われる跡、毎日の生活で使っていたと思われる鉢や壺、願い事をするときに使っていたと思われる道具などが見つかり、当時の人々の生活の跡が残されていることがわかりました。また、その当時は、木葉川の流れが今よりも北寄りで、その縁の部分に瀬萩遺跡が位置していたこともわかりました。

昔の道具が出てきた様子

このあたりは、今も広々と水田が拡がる、川沿いの水の豊かな土地です。昔の人も、川沿いの水の豊かな土地で、お米を作ったり、時には自然に祈りを捧げたりしながら、自然と共に生きる生活を営んでいたのでしょう。

人々の営みは、今も昔も自然と共にあることを、改めて考えさせられます。

瀬田池ノ原遺跡

瀬田池ノ原遺跡は、大津町から長陽村へ行く国道５７号線の南側に位置し、標高約210ｍの高さにあります。立野ダム建設工事に先だって発掘調査が行われています。遺跡の時代は、新しい方から弥生時代、縄文時代、後期旧石器時代で、それぞれの時代の土器や石器が出土しています。写真は、約２万年前の地層から出土した、石を加工して石器を作ったと思われる跡（石器ブロック）です。後期旧石器時代の人々がこの場所で石を使って何かを作ったのです。何を作ったのかはまだ分かりませんが、約３千点もの石の破片や石核それから敲石が出土しました。この場所で道具を作り、狩りや採集にでかけて行ったのでしょう。

約２万年前の石器ブロック

この場所に立ってみると、当時の人々の生活がよみがえってきて動きや息づかいが肌で感じられます。同じ空間に立って色々なことを想像しながら発掘調査を行っています。

両迫間日渡遺跡

両迫間日渡遺跡は玉名市両迫間にあり、菊池川の西側に位置しています。県道拡幅工事に先立ち調査されました。これまで近世・中世の水田跡を中心とした遺跡でしたが、今回の調査では、熊本県で初めて弥生時代の水田跡が見つかりました。

この弥生時代の水田跡は、水田を大きく区画する大畦と水田と水田を区画する小畦で構成されています。大畦は長さ13ｍ・幅１ｍの規模で、盛り上げた土が崩れることを防ぐために、両側には杭を打ち込んでいます。また道路としても使用されていたようで、盛り土の中には木材を敷き詰め、人が歩く時に沈み込まない工夫がされ、弥生時代の人々の知恵の深さを知ることができます。

弥生時代の水田跡

また、水田面からは、80ほどの足跡も見つかりました。汗を流し、稲の栽培を行った様子が想像でき、私たちに弥生人を身近に感じさせてくれます。

これまで県内では、弥生時代の住居や墓などは見つかっていましたが、その仕事の中心である水田跡は見つかっていませんでした。今回発見された遺構は、弥生時代の生活を考えるうえで、大変貴重な遺構と言えます。

梅迫遺跡（うめさこいせき）

梅迫遺跡は、山鹿市城にあり平成17年6月から平成17年9月まで、県道和仁山鹿線の道路整備事業にともなって発掘調査が行われた遺跡です。調査面積は約300㎡あります。岩野川の右岸に位置し、同じ台地上には装飾古墳で有名なチブサン・オブサン古墳などもあります。

今回の調査では、13棟の竪穴式住居跡が見つかっています。住居跡は四角形で、2本の柱を立てた穴や火を焚いた跡（炉）があり、出土した遺物から弥生時代後期（1800年前）の集落跡があったことがわかりました。主な遺物としては、青銅製の「槍鉋（やりがんな）」、土製の「勾玉（まがたま）」など、当時の生活の様子が分かるような品物が見つかっています。

発掘調査の作業風景

このように、遺跡の発掘では、思いもかけない貴重なものが見つかります。これらの成果をできるだけ人々に知らせることも大切な仕事です。

花岡古町遺跡（はなおかふるまちいせき）

花岡古町遺跡は、名前の通り芦北町の花岡字古町にあります。九州西回り自動車道につながる県道の付け替え工事に伴って調査が始まりました。調査は平成17年5月から11月までおこないました。

この調査で、今から700年～800年くらい前の中世（鎌倉時代）、1000年ぐらい前の古代（平安時代）、さらに1400年～1500年くらい前の古墳時代の人々の生活の痕跡が見つかっています。中世の層からは、多数の柱穴が見つかりました。それらの並び方の組み合わせから、およそ140棟もの掘立柱建物があったことを確認しています。この中には、ひさしを持つものがあり、かなり身分の高い武士の住居ではないかと思われます。また、これらの遺構に伴うと思われる遺物として、白磁碗（はくじわん）や青磁碗（せいじわん）、さらに中世の土師器の皿・坏（つき）・高坏（たかつき）、須恵器の坏などの土器類が多数出土しています。

遺跡から見つかった青磁碗

古代・古墳時代については、住居跡など人々の生活の痕跡は明確に確認できませんが、土師器の坏の完形品や、青銅製の耳飾りなどが出土しています。この地に、古代から人々が生活していたと想像できます。

この遺跡は、有名な佐敷城趾の一時代前の城趾といわれる東の城城趾の麓に位置しています。当時の武士の生活を垣間見ることのできるこの花岡古町遺跡は、芦北町の過去を語る貴重な財産です。

平成17年度国、県指定文化財一覧（平成18年2月28日現在）

国指定

指定の種類	名称	所在地	概要	建築時期、設立時期	指定年月日	備考
史跡	野津古墳群	氷川町	4基の前方後円墳	古墳	平成17年3月 2日	新指定
	堅志田城跡	美里町	中世山城	戦国	平成18年1月26日	新指定
	豊前街道腹切坂	南関町	参勤交代路	江戸	平成17年3月 2日	追加指定
特別史跡	熊本城跡	熊本市	平城	江戸	平成17年3月 2日	追加指定
重要文化財（建造物）	江藤家住宅	大津町	主屋、長屋門、中の蔵、馬屋、裏門、附土地	江戸	平成17年12月27日	新指定

県指定

指定の種類	名称	所在地	概要	建築時期、設立時期	指定年月日	備考
史跡	大鞘樋門群	八代市	樋門	文政2年	平成17年6月 8日	新指定
重要文化財（建造物）	有明海旧干拓施設群	玉名市	潮受堤防、樋門	明治26・28年	平成18年1月11日	新指定

国登録

指定の種類	名称	所在地	概要	建築時期、設立時期	登録年月日	備考
登録有形文化財	大川阿蘇神社農村舞台	山都町	木造平屋建、鉄板葺、建築面積89㎡	昭和28年	平成17年11月10日	
	熊本ルーテル学園神水幼稚園園舎	熊本市	木造平屋建、瓦葺、建築面積341㎡	明治4年	平成17年12月26日	

平成17年度発掘調査一覧

No.	遺跡名	所在地	主な時代	主な遺構	主な遺物
1	太郎丸遺跡	玉名市津留	弥生・古代・中世	溝状遺構	土師器・須恵器
2	西屋敷遺跡	玉名市玉名	中世・近世	墓地	五輪塔・墓石
3	花岡山・万日山遺跡群	熊本市横手	中世・近世	掘立柱建物跡・井戸・溝状遺構	陶磁器・土師器
4	瀬萩遺跡	玉名市津留	古代・中世	住居址・溝状遺構	土師器・須恵器
5	稲佐津留遺跡	玉名郡玉東町稲佐	弥生・古墳・古代・中世	住居址・溝状遺構	巴形銅器・青銅鏡
6	二本木遺跡群	熊本市田崎	弥生・古代	竪穴住居跡・掘立柱建物跡・溝	弥生土器・鉄製品
7	二本木遺跡群	熊本市春日	古代・中世	掘立柱建物跡	土師器
8	吉丸西遺跡	玉名市寺田	縄文・古代	竪穴住居跡・掘立柱建物跡	縄文土器・土師器・須恵器
9	船入遺跡	合志市須屋	縄文・中世	溝状遺構・道路	縄文土器・土師質土器・青磁
10	花岡木崎遺跡	菊北郡芦北町花岡	古代・中世	掘立柱建物跡・溝状遺構	土師器・須恵器・陶磁器・獣骨
11	花岡古町遺跡	菊北郡芦北町花岡	古墳・古代・中世	竪穴住居跡・掘立柱建物跡・溝状遺構	土師器・須恵器・陶磁器・人骨・獣骨
12	瀬田池の原遺跡	菊池郡大津町瀬田	旧石器・縄文・弥生	住居跡・集石・石器ブロック	土器・石器・炭化物
13	新屋敷遺跡	熊本市新屋敷	古代	道路・土壙	土器
14	頭地下手遺跡	球磨郡五木村頭地	縄文	溝状遺構	縄文土器・石器
15	両迫間日渡遺跡	玉名市玉名	弥生・古代・中世	畦畔・水田跡	土師器・須恵器・青磁
16	玉名平野条里跡	玉名市玉名	弥生・古代・中世	自然流路・土壙	土師器・須恵器・青磁
17	梅迫遺跡	山鹿市平小城	弥生・古墳・古代	住居跡	土師器・須恵器
18	北谷稗田遺跡	山鹿市鹿央町北谷	縄文・古代・中世	溝・礎石・掘立柱建物跡・土壙	縄文土器・土師器・須恵器・青磁・石器
19	神水遺跡	熊本市水前寺	古代	住居跡・道路	土師器・須恵器
20	中川錦川遺跡	上益城郡甲佐町中山	縄文・古代	住居跡・溝・土壙・集石	縄文土器・土師器・須恵器
21	花岡古町遺跡	菊北郡芦北町花岡	古墳・古代・中世	掘立柱建物跡・溝状遺構	土師器・須恵器・青磁・白磁
22	船渡遺跡	球磨郡相良村四浦	中世	竪堀	なし
23	菊池氏館跡	菊池市隈府	古代・中世	井戸跡・土壙	土師器・陶磁器

文化財資料室の公開・普及活動について

夏休み古代体験教室の様子

文化財資料室では、文化財の保護・普及を目的に、さまざまな活動を行っています。この施設は、熊本県文化課が行う埋蔵文化財発掘調査による出土遺物の整理・収蔵施設として設置されたものです。膨大な量の出土遺物等の資料を活用するため、企画展を初めとする展示活動や、原始・古代をテーマにした体験学習会の開催、さらに中学生を対象にしたナイストライ（職場体験学習）事業の受け入れなどにも積極的に取り組んでいます。

以下、平成17年度に実施した主な事業を紹介します。

1 企　画　展

前期企画展　原始古代の暮らしと道具シリーズ―『～すべては石の道具から始まった～ザ・石器時代』
開催期間：平成17年7月21日～平成17年9月30日

後期企画展　『写真でたどる夏の思い出2005″夏休み古代体験学習会″～熊本教育の日協賛～』
開催期間：平成17年11月12日～平成18年3月31日

2 体験学習会

『夏休み古代体験教室』平成17年7月21日～8月31日

3 ナイストライ(中学生職場体験)事業

平成17年度参加校

1 熊本市立帯山中学校　　4 熊本市立武蔵中学校
2 熊本市立西原中学校　　5 熊本市立清水中学校
3 熊本市立湖東中学校　　6 熊本大学教育学部附属中学校

※　現在、文化財を学校教育の場で活用できるよう「原始くまもと“発見”考古資料学習キット」を準備しています。土器や石器などのさまざまな文化財を取りそろえています。
　詳しくは県文化財資料室までお問い合わせ下さい。

ナイストライの1コマ

交通機関のご案内

学習キット（準備中）

文化課ホームページ「くまもとの文化」　http://www.pref.kumamoto.jp/education/hinokuni/index.html

文化財通信くまもと 第23号 平成18年3月31日
発行：熊本県教育委員会文化課　Tel 096(333)2705
編集：熊本県文化財資料室　Tel 096(363)8881 FAX 096(363)8314
印刷：敷島印刷株式会社

17　教委　教文
④　008